

【会員だより】

母校が4年制大学になったのはつい先日の様に感じますが、早いものでもう2回生が社会で活躍してくれています。社会に貢献できる医療人を目指す新卒業生からの報告をいただきました。新入りと呼ばれた日がセピア色に変わってしまった我々にも、当時を思い出させてくれる熱い意気込みが感じられます。後輩達のこれからの活躍に期待しています。

診療放射線技師になって



京都第二赤十字病院 今西 美貴(大学2回生)

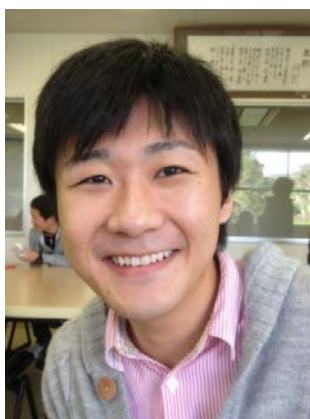
私は現在京都第二赤十字病院に勤務しています。始めの頃は一般撮影とポータブルを担当していました。そこで、患者さんとの意思疎通の予想以上の難しさに困惑し、失敗も多々繰り返しました。そのため、悩みが絶えず「技師に向いていないのでは」と落ち込んだ日もありました。しかし、私の周りには悩みを聞き、励まして下さる職場の先輩方、友人や恩師、そしていつも応援してくれている家族がいました。時には患者さんからも温かい言葉を頂きました。そんな多くの人に支えられ「患者さんのためなのだから、逃げないで諦めずに頑張ろう」と心に誓い、努力している内に徐々に患者さんとの接し方や、撮影法などを自分のものにしていく事ができました。

6月になると頭腹部血管造影、心臓カテーテル検査、7月にCT、9月からはMRIと様々なモダリティを担当し、Dr. や看護師、他職種の方との連携の場も増え、チーム医療の一員であり、少しでも役に立てよう緊張の毎日でした。それに加え、異なるモダリティごとのポジショニングや機械操作等、覚える事が沢山で慌ただしくあつという間に半年が過ぎてしまいました。

11月からは当直業務に入るようになりました。救急は撮影法がマニュアル通りにいかない事がほとんどで、臨機応変に患者さん一人一人に合わせて工夫をしなければなりません。また、重症患者の場合、検査がスムーズにいくか否かで生死に関わり、素早い判断と行動力が求められます。常に撮影手順や患者状態の把握など、先の事を考えながら行動する事を心掛けるようにしています。しかし、それを実践する事は難しく、苦戦しているのが現状です。

私は技師としてまだまだで失敗も沢山しますが、毎日少しずつ成長している事を実感し、充実した毎日を過ごしています。これからも初心を忘れず、頼りにされる存在になれるよう日々勉強し、努力し続けたいと思います。

大学院へ進学して



名古屋大学大学院 学生 岩井 大樹(大学1回生)

私は本学卒業後、名古屋大学大学院に進学しました。大学院入試に際してはたくさん先生の先生方に進学先、研究室探しから院試英語の指導まで非常に親切にいただきました。特に、西谷先生と細羽先生には大変お世話になりました。この場をお借り致しまして、先生方にお礼申し上げます。

すぐに就職しない事に関して悩みましたが、研究が楽しかったのと企業就職を志望していた事もあり、進学を選びました。

京都医療科学大学では授業後に休憩室で仲間と過ごしたり、園部という土地で四季折々楽しく生活していたことが思い出に残っています。

現在は画像・情報工学研究室で、位相コントラストイメージングの画像再構成についての研究をするとともに、学部時代の卒業研究のテーマであったモニタの色再現についての研究も続け、そちらは本学の細羽先生にご指導いただいています。

実験や打ち合わせで園部に顔を出す度懐かしい気分となり、気を引き締めて名古屋へ戻っています。

まだ学生の身分ですので、先に就職した同級生に遊んでいると言われたいやう、研究に励んでいます。名古屋大学は24時間利用可能であり、朝から夜まで起きている間はできるだけ利用しています。学部時代自分が最も疎かにしていたフーリエ変換などが、大学院に入って最低限必要な基礎知識であったりします。その場はなんとかしのぎ、後で勉強したりするような事がたくさんありますが、その成果はすぐに役に立つので、非常にやりがいを感じます。慣れない英語が必須であったりと、大変な事もありますが、各地の学会などで知り合いができたり、

土地のものを食べたりと楽しく過ごしています。日を重ねるうちに、同じ研究室内でも人によって研究に必要な知識や出来ることが異なってくるので、お互いに協力することも覚え充実した面白い日々を送っています。

放射線技師になって

倉澤 愛実(大学2回生)

私が勤めている埼玉協同病院は、病床数401床(一般351床・回復期リハビリテーション50床)あり、埼玉南部地域において、地域第一線医療に力を注いでいます。放射線技師は21名、内8名が女性技師で、業務は主に一般撮影、マンモグラフィ、透視検査、血管造影検査、CT、MRI、エコーをしています。

大学生活は試験の勉強に追われることが多く、一年前は国家試験合格を目指し勉強に追われる毎日で、気が滅入ってしまうこともありました。しかし、周りの友達から教えてもらったり、反対に教えたりと知識の交換をして助けあいながら勉強をし、または一緒に息抜きをすることができる良い仲間がいたので乗り越えることができました。このような仲間を持つことができた4年間は、今ではかけがえのない大切なものです。

診療放射線技師として働き始めたときは、緊張と不安でいっぱいでした。救急で運び込まれた患者さんにはマニュアルにある撮影法では対応できず応用を考えなければならない、接遇やポジショニングでは患者さんに伝わるように言葉を選ばなければならない、胃透視では患者さんの体型により撮影条件を考え、胃の形からバリウムの流れを考えなければならないなど、どのように対処していいか判らない自分が情けなく悔しい思いをすることもありました。しかし、忙しい現場の中で先輩からたくさんものを見て学び、アドバイスをいただきながら納得のできる写真を撮ることができた時は嬉しく、そのような刺激がある毎日が楽しくもありました。今では自信を持って検査に向かうことも増えてきて、放射線技師としての知識・技術の向上に取り組んでいる日々を送っています。いち早く患者さんのため、病院・仲間のために一人前の技師として働けるように頑張っていきます。

学生時代を振り返って



シミズ四条大宮クリニック 畠山 平(大学2回生)

私の学生時代は、学生自治会やサークル活動に力を注いで楽しかった日々の記憶と、試験期間前に友人達と切羽詰りながら猛勉強したり、国家試験勉強で大変だった思い出が強く残っています。今思い返すと、勉強面で先生方にもっと積極的に質問していれば、効率良く知識をものに出来たのではと反省しています。在学生の方へ伝えておきたい事があります。本学の一番の特徴は他学に比べ先生と学生の距離感がとても近い事です。分からないことがあればどんどん質問しに行ってください。聞いた知識が試験勉強だけでなく就職してから生かされてくるはずですよ。4年間は長いようで短いです。遊びでも勉強でも充実した大学生活を過ごしてください。

在学中に起こった東日本大震災では、私の出身地である宮城県気仙沼市も大きな被害を受けました。その際に多くの方から沢山の御支援をいただきました。この場をお借りして学校関係者の方々、先生方、そして友人の方々に感謝を申し上げます。

現在、私が所属しているシミズ病院グループは『医療と福祉の融合を進め、期待され喜ばれる医療・求められ選ばれるケアを実施します』を理念とし、急性期医療から介護・福祉まで幅広く取り組んでいます。そのグループの中で特に脳ドック・人間ドックに力を入れているシミズ四条大宮クリニックで、一般撮影とMRIを担当しています。

就職して約半年が経ちましたが、まだまだ勉強の日々です。始めの頃は接遇を丁寧に行おうとするばかりに検査に時間を掛けすぎてしまったり、逆に検査を行うことに精一杯になりすぎてコミュニケーションを疎かにしてしまったりと、接遇と検査のバランスに苦労しました。やっとこの頃撮影に慣れてきたことでなんとかスムーズになってきました。これからはマニュアル通りの撮影だけではなく、ドクターがどのような画像を求め、そしてどのように撮影すれば患者さんへの負担を少なく出来るだろうかと考えながらさらに日々努力していきます。

以上